

令和2年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 確かな学力の育成	○学力の向上	・アクティブ・ラーニングに関する研修を全教科で取り組んでいる。 ・ICT機器を活用した授業等に取り組んでいるが、タブレット等活用率が76%(R1)である。 ・評価方法を研究するとともに、更なる授業改善を推進する必要がある。	・組織的、計画的に授業改善を推進する ・系列の特色化と資格取得を促進する	・各教科一人以上がアクティブ・ラーニングの公開授業及ルーブリック評価を実施 ・外部講師招聘による授業研究会を実施 ・ICT機器の授業活用が教員全体の80%以上となるよう研修等の機会を確保 ・コーチングスキル向上による授業改善の更なる促進 ・各系列ごと学校独自事業の充実、特別支援学校との交流	・ルーブリック評価研修を1回実施。評価表を各教科で作成中。公開授業は12月に開催予定。 ・授業研究会を公開授業に併せて開催予定。 ・現在のタブレット使用率60%。 ・個人による授業改善を計画中。	C B C	・各教科で実践が増えるよう継続して情報提供。 ・全教科でICT活用ができるよう研修や授業の場面を設定。 ・講師による研修を実施予定。	
	・主体的に学習に取り組む態度の育成	・高度資格取得の合格率は58%(R1)である。		・英検準2級(英検2級、ビジネス文書1級等)の受験者数増加と受験者の60%以上の合格	英検準2級に4名合格。ビジネス文書1級(文書部門)は60%合格。情報処理検定ビジネス情報部門1級に2名合格。	B	・コロナ感染症状況を見ながら調整して実施。	
	○思考力、判断力、表現力の更なる向上		・テーマ学習を深化させ課題解決能力を高める	・地域経済分析システム(RESAS)を活用した米子市中心市街地活性化基本計画の構築と地方創生アイデアコンテスト及び高校生ビジネスグランプリへの応募	・RESAS出前講座を予定通り実施。地方創生政策アイデアコンテストに8グループ応募。高校生ビジネスグランプリは今年度中止。	B	・学年最終発表会等に向けてブラッシュアップを図る。	
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・遅刻者数は前年比12%(R1)増加した。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	・遅刻者数を前年の15%減を目指す	・遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	・遅刻者数は前年並み。遅刻確認表未提出の生徒もいる。	C	・本人への指導、保護者との連携強化。	
			・規範意識の向上と掃除の徹底	・米子高校生としての自覚を促す行動の啓発(問題行動ゼロ)SNS対策を中心とする情報リテラシー教育の推進 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として安全意識向上を図り、着用率20%以上となるよう機会を捉えて啓発・指導 ・掃除の徹底と整理・整頓の推進	・8月に情報リテラシー教育を実施。スマホトラブルは今年度減少。 ・ヘルメット着用率が約15%。意識啓発の集会を実施。 ・環境委員が積極的に日々活動しているが、掃除の不十分な箇所がある。	B D B	・継続的に啓発活動を実施。 ・立番や生徒主体の啓発活動を通して着用率の向上を図る。 ・点呼及び掃除内容の確認の徹底。	
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・問題行動ゼロは達成できなかったが、殆どの生徒が規範意識を持って生活している。	・生徒の各種活動への積極的参加を促す	・生徒会執行部による各種自主的活動の充実 ・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務(月45時間以下、年間360時間以下の遵守)削減 ・韓国造形芸術高校の交流受け入れ ・生徒会による「はるかかのひまわり植栽プロジェクト」の実施	・コロナ禍で各行事に創意工夫して活動した。 時間外業務時間が月45時間を越える教員が数名いる。 ・交流事業は中止である。 ・生徒会の実施計画が不十分。	B C C	・執行部の引継ぎを円滑に実施。 ・部活動計画での分担を確認し、業務を適切に遂行する。 ・オンライン交流を進める。 ・ひまわりは引継ぎの準備を行う。	
			○支援が必要な生徒への援助	・自転車ヘルメット着用は2%である。	・生徒情報を共有し適切なサポートを行う	・研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	・エビベン職員研修は予定通り実施。生徒へのサポートができた。教育相談連絡会等で担任団の情報共有を図った。	B
				・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が80%を超えるようきめ細かにサポート ・人権教育LHRで活発な意見交換を行い、人権問題について主体的に考えて行動ができるLHRの仕組みの構築	・9月実施は「自己肯定感が高い」56%。 ・2年次生は人権教育LHRで新規ゲストティーチャーを招聘して実施。	B	・高校生活アンケートは9月との変化を考察。
3 自己実現のための進路指導の充実	○キャリア教育の発展	・産業社会と人間・ブレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少(H30年25名(内、国公立9名)、令和元年20名(内、国公立3名))	・教員の指導力向上と外部指導者の活用	・総合的な学習の時間における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 ・キャリアパスポートを活用し、自らの成長を実感できる取組み ・学習成果発表会における他校生徒との連携	・産業社会と人間の講演会等は時期を考慮しながら開催。 ・キャリアパスポートも生徒に配布し、学期ごとの振り返りを実施。 ・コロナ感染症予防のため他校連携は未実施。	B B B	・学習成果発表会に向けて準備を強化。 ・指導時間の確保。 ・次年度に向けて方策を検討。	
	○進路指導の充実		・大学進学25名、(内、国公立大学5名)の合格を目指す ・生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	・教員研修と進路希望検討会を充実させ、キャリアパスポートを活用した大学入試改革への対応 ・看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	・全学年進路希望検討会を実施。新しい入試制度についての教員研修会も実施。 ・コロナの影響で看護体験が実施できなかった。	B B	・生徒の進路実現に向けて指導を継続。 ・看護体験実施に向けて医療機関等へ要請する。	
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	・地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。 ・学校運営協議会を導入したが、具体的な活動に至っていない。		・部活動における各種イベントの開催と参加 ・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進 ・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活性化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進	・新型コロナウイルス感染の影響で未実施が多数。 ・はるかかのひまわり絆プロジェクトは順調に実施出来た。 ・コロナ禍の影響で未実施。 ・両事業とも実施。地域貢献の一助となっている。	B A B A	・生徒の安全を確保し、できる範囲で実施予定。ハイホット・総合美術展は12月以降に実施。 ・ひまわり絆プロジェクトの種子配布等に取り組む。 ・中学校と日程調整を実施中。 ・10月末に第2回草花植栽活動を実施予定。	
			○積極的な社会参画と情報発信	・社会につながる教育活動を推進する	・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実 ・総合美術展の開催による情報発信	・実施に向けて準備中。 ・ホームページ、県ツイッター等で情報発信予定。	B B	・12月に実施予定。 ・1月に米子コンベンションで実施予定。

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画（予定）どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている（取組は進めたが、成果が出ていない） D: 一層の（新たな）取組が必要